

あまり自分のことや考えを話さないで、「どうすればいいか」と質問して
くることがある。この時、相手の期待にこたえようという気持ちが強く出
て、質問に答えていては、自己決定を助ける面接にはならない。すすんで
話すかわりに、意見を求めたがっていることは、すべてを話すことに不安
をいんでいるからであって、このような時は、

「私にできることは、あなたが話したことを一緒に考え、考えが発展す
るように助けることなんですよ」

「では、あなた自身はどう考えているのですか」

などと応じてやればよい。

⑤ 個人的なことを質問された時

「先生は私の年ごろの時どうでしたか」などと個人的なことについての
質問がでることがある。まともにこれに応じていては、本当の面接にはな
らず、雑談に発展しやすい。

このような時は、

「どうして私の個人的なことを知りたいのですか」

と応対し、自然のうちに、話題からそれてしまっていることに気づかせな
ければならない。もちろん、相手を責めるのが目的でないから、相手が口
ごもったり、動揺したようならば、

「話題が本筋からそれてしまったようですね。さあ、また、話をもとに
戻しましょう」

といてやればよい。

⑥ 期待した反応が返ってこない時

相手から期待した反応が返ってこない時、こちらが不安になり、動揺し
てしまっては面接にならない。こちらの言葉に相手がうまく反応しなく
ても、決して動揺しない態度こそ、相手にとって、何よりも大きな心の支え
になっていることを忘れてはならない。

4. 話に耳を傾ける段階

相手が本論に入り、すすんで訴えを始めたなら、その言葉に耳を傾けなければ
ならない。相手の問題がどこにあり、何が解決をさまたげているかがわからな